

武道の尊厳～スポーツではなく武道としての空手～

The dignity of the martial arts～It is karate as the martial arts not sports～

1K05B063

指導教員

主査 小野沢弘史先生

蚊野 准弥

副査 太田章先生

<緒言>

私は幼少の頃から空手を学び、中学・高校と日本の頂点に立ち、早稲田大学へと入学した。しかし早稲田大学に入学し、今まで自分がやってきた空手は試合でポイントを取り、試合に勝つための近代空手(スポーツ空手)であることに気づかされた。早稲田大学では武道としての空手を重んじており、自分の身を守るための空手を行っていた。私は早稲田大学の練習を行うことにより、今まで自分がやってきた空手に疑問を感じるようになった。空手というものはもともと、「王の警護や治安維持のために役人たちが修練した」という事実を知り、ただポイントをとって試合に勝つのが空手ではないと考えるようになってきた。近年、柔道を初めとする武道は世界に広まり、注目を集めるようになった。しかし、世界で行われている武道は日本古来のものなのか、武道とスポーツはいったい何が違うのか疑問が生れた。そこで本論文では、空手がどのように発展してきたのかを概観するとともに、武道とスポーツを比較し、これからの武道全体がさらに発展するためにはどうすべきかを私なりの観点で論じた。

<第一章>

第一章では空手の歴史について述べた。中国から伝わり、やがて沖縄で発展していった空手の起源と広まりから、わが早稲田大学空手部の創部と発展について、更に空手の競技化に大きな影響を与えた学生連盟や日本空手道連盟の設立を紹介した。また、いまや世界に広められた空手がどのようにして日本から海を渡って世界へと

伝わるようになったのかを大島勘氏を始めとする先人の活躍や指導の歴史に焦点をあててその経過を記した。

<第二章>

第二章では世界へ広まったことにより本来の日本の武道からスポーツへとかわりつつある空手の現状について述べた。現在行われている武道は、狩猟や戦闘などに起源をもつ一群の国技の総称とされている。しかし月日が経つにつれ、武道とスポーツの区別が理解されにくくなってしまった。武道が戦後から競技化(スポーツ化)されたといえる。これを受けて、合理化・安全化・大衆化されたことは必ずしも否定すべきではないであろうが、武道には競技化に好都合なもの、大衆化しやすいものもあれば、競技化しない方がよいものもある。そういった論点から近代スポーツの特徴と元来の武道について比較し、その意義について述べた。更に、現段階での試合制度やルールを紹介した。

<第三章>

第三章では武道の発展にともなう武道のスポーツ化を受けて、改めて元来の武道とはどういうものなのか、どうあるべきなのかをしつけや礼儀作法をはじめとする3つの論点から論じた。また、武道の指導にあたって古くから、重んじられてきた武道本来の姿を尊重するとともに、今後武道全体がさらに発展していく中で指導にあたる者や武道家が留意していかなければならない点について述べた。

＜結章＞

結章では空手の歴史や発展によって疑問視された武道のスポーツ化について改めて検討した。

武道の尊厳を重要視した結果、武道のスポーツ化に対して疑問をあてた形となったが、スポーツ化することによって海外を含め、広範囲にわたって武道が浸透し、競技化することができたのも事実である。しかし、長い年月、様々な時代を超え、自分の身を守る武術として発展してきた武道は、海外発祥のスポーツとは異なり、躰や礼儀作

法においても重しをおいており、人間的な精神力の成長や人間性の育成の役割も担っていた。今後、武道全体がさらに発展するためには改めてそういった武道の重要性を考え直し、本来の武道の姿を武道家は伝えていかなければならない。特に海外において武道が広まり、スポーツ化していくとなれば、指導者は武道とは何かを念頭において指導していくべきである。